

BELCA賞 ベストリフォーム・ビルディング部門 表彰

建物名称 蒲郡プリンスホテル
 所在地 愛知県蒲郡市竹島町
 建物用途 ホテル
 竣工 1934年4月1日
 改修 1987年8月4日
 所有者 株式会社 蒲郡園地
 設計者 株式会社 竹中工務店
 施工者 株式会社 竹中工務店



審査評

本物件は、もと、昭和9年に開業したホテルであった。建築様式は、昭和初期にみられた“帝冠様式”の代表的建築物で市の小高い丘の上に建てられ、街のシンボルとなっていたものである。半世紀にわたり国際観光ホテルとして栄えたが、昭和55年親会社の経営不振から、その歴史の幕を閉じた。その後7年間の閉館の後、昭和62年に改修を行ったものである。当初は建物が古く、取り毀しの上新設の方が良いのではないかという意見もあったが、街のシンボリック建築物であり、市からのたつての要請もあって、これに応え改修と決まった経緯がある。

日本ではこのような古い建物はややもすると時代の波に適合していないなどの理由から取り毀される例が多い中で、改修によりみごとに近代ホテルに甦らせたことは、わが国における建築物の歴史を後世に残すという面からも評価に値する。

改修にあたって、インテリア等のモチーフは、旧蒲郡ホテルのカーペットに使用されていた松葉色（常磐の松）と紅梅色に蒲郡市の花“ツツジ”を用い、カーペットは勿論のこと家具、什器にも取り入れている。また、ロビー、宴会場、貴賓室に使用されていた木調の壁装、大理石の窓石、腰壁、ラジエーターグリル及び照明器具など、開業当時を偲ぶことの出来るものは、出来るだけ利用し、むしろ新しいものを古き良きものに合わせることに努力と工夫が施された。その結果、かえって新しい感覚の中にも歴史の重みを感じさせる高水準なインテリアデザインとなっている。

設備面では、一例を示すと空調衛生等の新設配管の一部はやむをえず外壁廻しとしているが、外観的には構造体の梁に見せ、違和感を感じさせないように建築デザインとの調和を図るなど、十分な工夫がなされている。